

「1・2・おばけ! (1)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター 研究員

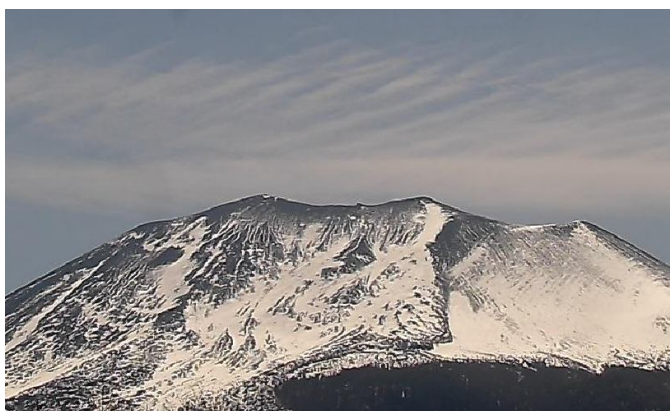
田中 千尋 Chihiro Tanaka

浅間山には、毎年春になると「1・2・おばけ!」というお化けが出現する。「年によって」とか、「今年はどうも出現しなかった」ということは絶対になく、毎年決まって出現するのが面白い。



私はその「1・2おばけ」を画に描いたことがある。浅間の山肌に「1」「2」「おばけ」が出現している。これは、残雪の模様がそのように見えているのである。

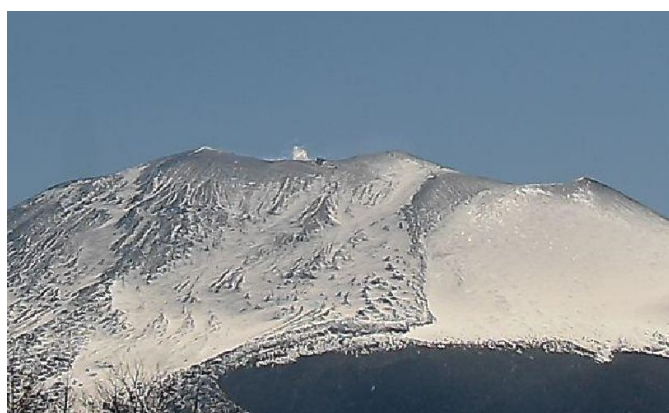
この「1・2・おばけ」は、毎年必ず出現はするのだが、その年の気温や積雪の状態によって、現れる時期は変化する。私は2004年から、研究仲間と浅間山の定点観測を行っていて、2カ所、5台のカメラで常時観測をしている。過去の浅間や画像も、数秒~数十秒に一コマの割合で保存されている。



たとえば、これは2019年4月5日の浅間山山頂付近の画像である。この年は雪どけが平年並みで、「1・2・おばけ」もまだおぼろげにしか現れていないのがわかる。



これは昨年2020年の同日4月5日の画像だ。この年は3月下旬や4月上旬になっても山頂付近には積雪があり、一旦現れた残雪の模様が、再び新雪に消されてしまうということの繰り返しだった。



これは今年2021年3月15日の画像である。昨年の4月上旬の頃と同じような雪の状態、今年はやはり雪どけが早かったことがよくわかる。



そしてこれが、一週間後の2021年3月23日の様子だ。一週間でだいぶ雪どけが進んで、黒い山肌があちこちに現れている。標高が高いはずの山頂火口壁付近の雪が異常に少ないのは、気温や日当たりの影響ではなく、火山活動による噴気(火山ガスや水蒸気による白煙)によるもので、浅間山ではよく見られる現象だ。まだ「1・2・おばけ」ははっきりしないが、やや特徴的な残雪模様が現れつつある。